

個別目標 1-2 | 誰もが自分らしく、健康で生きがいをもって暮らせるまちをつくります

施策 1-2-2

ユニバーサルデザイン\*のまちをめざします



【10年後のめざす姿】

- 道路や建物に限らず、サービス、情報提供などのユニバーサルデザイン化が進められ、障がいの有無、年齢、国籍などに係わりなく、誰もが円滑に生活できています。
- 自立し、安心して、快適に暮らせる環境が、区民の理解と参加によってつくられています。

【10年後のめざす姿にどれだけ近づいたかを測るモノサシ(指標)と目標値】



| モノサシ(指標)                  | 現 状   | 25年度  | 30年度  |
|---------------------------|-------|-------|-------|
| バリアフリー*に対する改善度評価(実態調査)(%) | 50%   | 70%   | 80%   |
| だれでもトイレの設置割合/公衆トイレ設置数(%)  | 64.9% | 89.2% | 95.9% |

【現状と課題】

大田区では、現在あるバリア(障壁)を取り除く「バリアフリー」の考え方のもと、区民・団体との協働\*や、区民・事業者\*の相互理解と協力により道路の段差解消や区施設などのバリアフリー整備を行ってきました。しかし、今後は「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」を基本に、できるだけ幅広い人々を想定した「ユニバーサルデザイン」の考えに基づいた社会の実現が必要です。施設ごとのバリアフリー化だけではなく、生活の一連の行動を想定し、点から線へ、線から面へと誰にとっても利用しやすい施設整備や、移動、情報アクセス、コミュニケーションなどが円滑にできる生活しやすいまちづくりが求められています。ハンディキャップ\*を持つ人にとっては、移動しやすい街や移動手段の確保も課題です。

また、心のバリアフリーの普及啓発活動の拡充や、大田区の産業技術を活用した福祉機器の開発や普及も期待されています。区民一人ひとりがユニバーサルデザインの視点を持ったまちづくりに参加し、高齢者や障がい者だけでなく、国際化や女性の社会進出など社会の変化に理解を深め、互いに支えあえる社会の実現をめざしていく必要があります。

## 【施策の体系】

枠で囲んである事業は、その主な取り組み内容を次ページ以降で紹介しています。

### ユニバーサルデザインのまちをめざします

安全で円滑に移動できるまちづくり

ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定・推進

誰にもわかりやすいサイン整備

ユニバーサルデザインに配慮した地域整備の推進

鉄道駅舎のバリアフリー化の推進(再掲)

区有施設のバリアフリー対策の推進

だれでもトイレの整備(再掲)

誰にも優しいまちづくり

心のバリアフリーの促進



蒲田駅に設置したエレベーター



区民が中心となって実施したまちづくりのワークショップ\*



## 【 施策の方向性と主な事業 】

### ①安全で円滑に移動できるまちづくり

区民の意見を反映させて、複数の機関の協力のもとに多面的にバリアフリー\*化を進め、大田区に暮らす人や訪れる人が、安全で移動しやすいまちをめざします。高齢者や障がい者などハンディキャップ\*を持つ人の移動手段の確保を促進していきます。

| 計画事業名                   | ユニバーサルデザイン*のまちづくり基本方針の策定・推進  |    |    |    |    |    |       |
|-------------------------|--|----|----|----|----|----|-------|
| 主な取組内容                  | 区民や区を訪れる人が安全で円滑に移動できるまちを築くための考え方や、方策、手段等を盛り込んだ基本方針を策定します。策定後は、それを実現するためのアクションプランを定め、ユニバーサルデザインのまちをめざします。 |    |    |    |    |    |       |
|                         | (平成/年度)  | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26～30 |
| ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定 | ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針の策定  | 検討 | 策定 | 推進 |    |    | 継続    |
|                         | アクションプランの策定・実施   | 策定 | 実施 |    |    |    | 継続    |

| 計画事業名          | 誰にもわかりやすいサイン整備   |    |    |    |    |    |       |
|----------------|--|----|----|----|----|----|-------|
| 主な取組内容         | 障がいなどのハンディキャップを持つ人や外国人、大田区を始めて訪れる人などに、わかりやすく、利用しやすい案内や表示などのサインを整備し、移動しやすいまちをつくれます。<br>整備にあたっては、ユニバーサルデザインの視点とともに、大田区の魅力をアピールできるよう観光の視点も加え取り組みます。 |    |    |    |    |    |       |
|                | (平成/年度)  | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26～30 |
| 誰にもわかりやすいサイン整備 | サイン整備計画の策定   | 策定 |    |    |    |    |       |
|                | サイン整備の推進   |    |    |    |    |    | 継続    |

|       |  |
|-------|--|
| 計画事業名 | <b>鉄道駅舎のバリアフリー化(再掲)</b><br>➡詳細は、P118を参照してください。 |
|-------|--|

|       |  |
|-------|--|
| 計画事業名 | <b>だれでもトイレの整備(再掲)</b><br>➡詳細は、P118を参照してください。 |
|-------|--|

## ②誰にも優しいまちづくり

障がい者や高齢者、妊婦、子育て中の家族、外国人などサポートを必要とする人たちに対する理解を深め、思いやりの心を持ち、気軽な声掛け、手助け等ができるよう、心のバリアフリーの啓発活動を進めます。また、住宅改修の支援や情報への円滑なアクセスができる環境を整備するなど、誰にも優しいまちづくりに努めます。



障がい者と行政が協働\*して行ったバリアフリー点検

